

株式会社 エーワン精密

平成23年6月期決算説明会

平成23年6月期 決算説明会資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ コレットチャック部門	3
④ 切削工具部門	4
⑤ 自動旋盤用カム部門	5
(2) 決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 切削工具部門	11
③ 自動旋盤用カム部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

13,500社以上の顧客からリピートオーダーが入る

コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

NC旋盤 1,804億円(2010年生産額) 14,526台

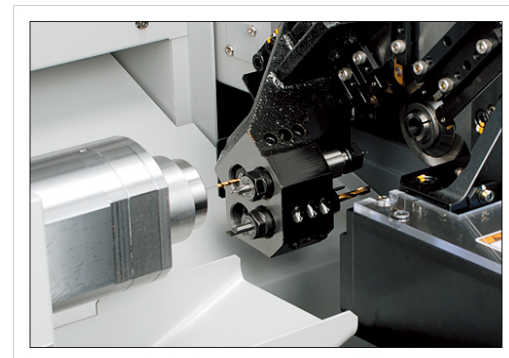
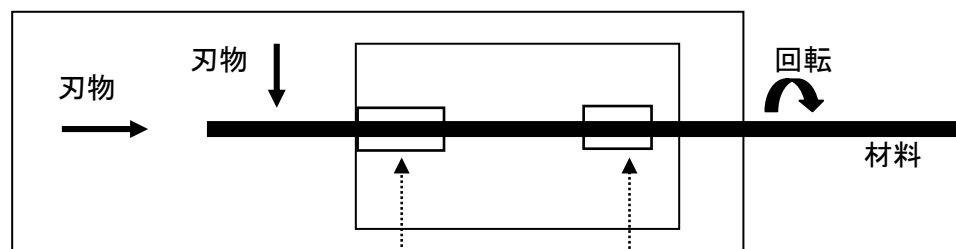
うち CNC自動旋盤 約 972億円(2010年推定生産額) 約 5千台

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリーミヤノ、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 606億円(2010年生産額) 3,082台



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンタ	2,836億円(2010年生産額)	26,032台
NCフライス、中ぐり盤	144億円(2010年生産額)	444台

使用される工具

超硬エンドミル	302億円(2010年生産額)
超硬ドリル	253億円(2010年生産額)
その他超硬工具	373億円(2010年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

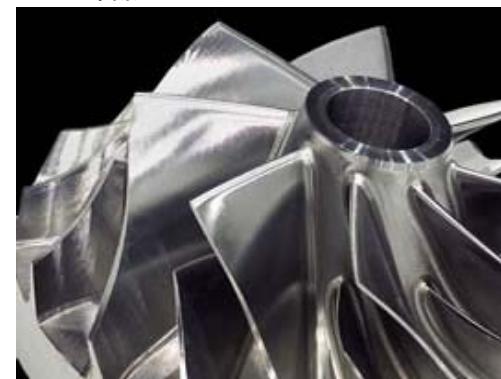
オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



自動旋盤用カム部門

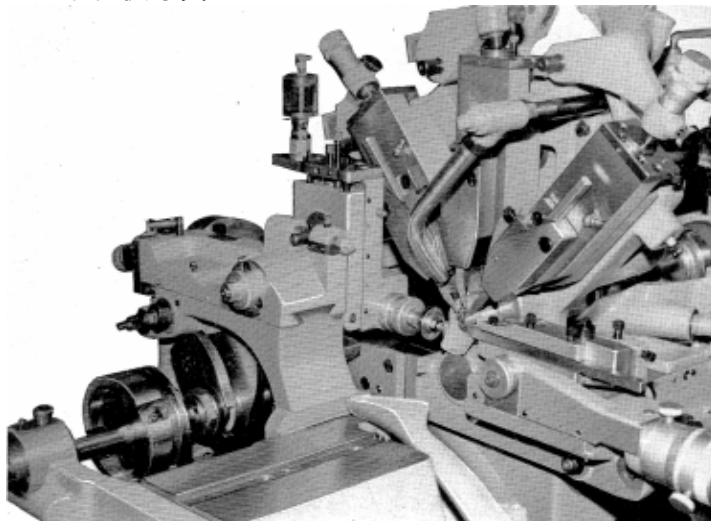
カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

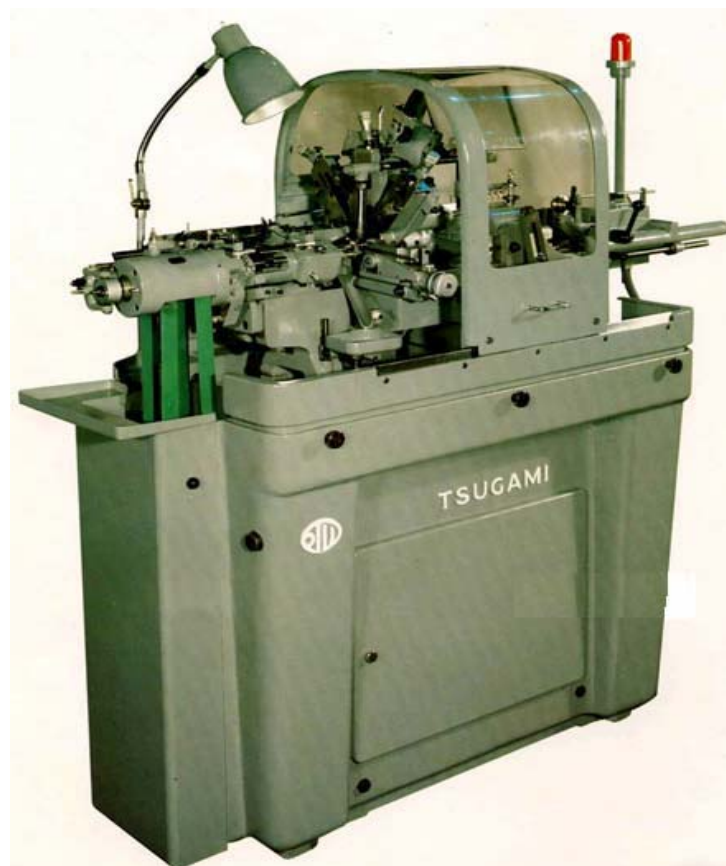
製品写真



カム取付後写真



カム式自動旋盤



決算概要

売上	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の緩やかな景気回復局面と新興国を中心にした旺盛な需要に下支えされて一定の受注水準を維持した。 ・エコ関連の補助金・ポイント打ち切りや東日本大震災による一時的な受注への影響はあったが、世界的には耐久消費財需要は好調で外需に引っ張られる形で一定の受注を確保した。
原価	・当期の原価に関しては経常的なものであり、特別な固定費および変動費の増加要因はなかった。
利益	・増収に比例した増益となった。売上高営業利益率に関しては、切削工具部門で前々期に新設した工場の減価償却費増により従来に比較して利益率は若干低下している。

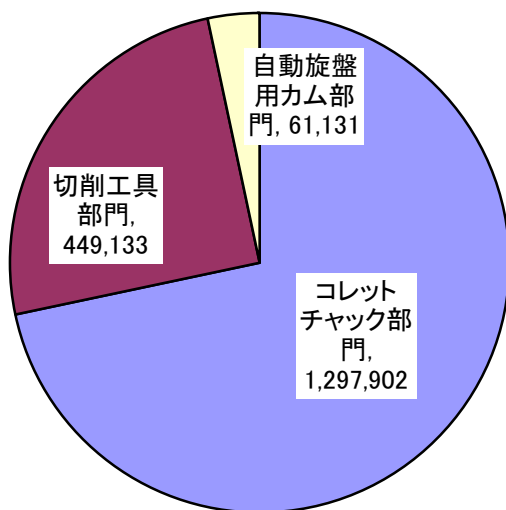
人件費

	20期	21期
労務費	594,660	669,045
コストに占める比率	49.6%	51.0%

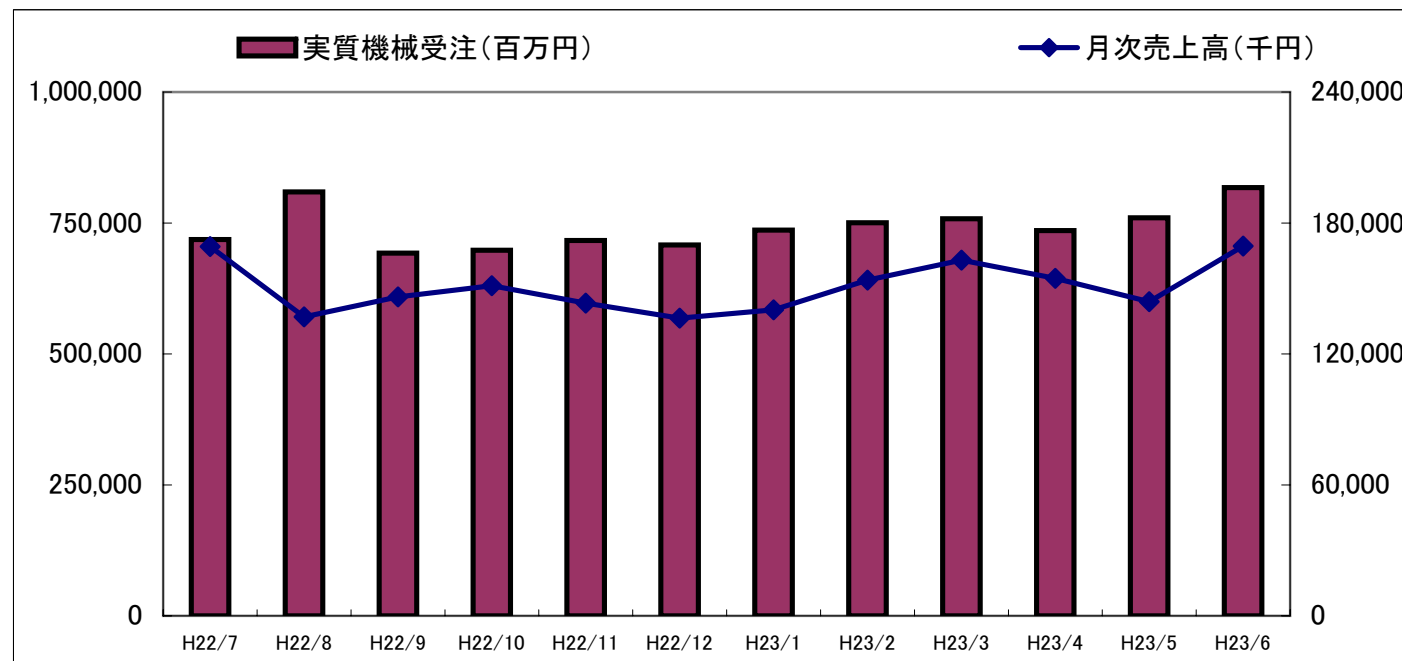
設備投資額と減価償却費

	19期	20期	21期
設備投資額	513,931	225,010	133,667
減価償却費	210,917	233,795	216,881

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成 23年 6 月期 損益の状況

(単位：千円)

	平成 22 年 6 月期			平成 23 年 6 月期			増減要因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							・量産品に係わる国内生産はリーマンショック前の7~8割水準で推移した模様。
コレットチャック	1,115,826	73.5%	107.1%	1,297,902	71.8%	116.3%	・コレットチャック部門もほぼ量産品に連動した動きとなり年間を通じて概ね横ばいで推移した。
切削工具	339,213	22.3%	88.1%	449,133	24.8%	132.4%	・切削工具部門はコレットチャック部門に比較してリーマンショック後の受注回復速度は緩やかであったが年間を通じて回復基調を示した。
自動旋盤用カム	63,345	4.2%	110.4%	61,131	3.4%	96.5%	・自動旋盤用カム部門は年間を通じて横ばいで推移し前年比微減となった。
合 計	1,518,385	100.0%	102.3%	1,808,168	100.0%	119.1%	
売上原価	927,728	61.1%	103.9%	1,030,281	57.0%	111.1%	・増収に連動した変動費部分の増加にとどまった。
売上総利益	590,656	38.9%	99.9%	777,887	43.0%	131.7%	・増収に比例した増加となった。
販売費及び一般管理費	268,367	17.7%	100.6%	285,094	15.8%	106.2%	・操業度上昇に伴う人件費増。
営業利益	322,289	21.2%	99.3%	492,793	27.2%	152.9%	・増収に連動した増益。
経常利益	342,251	22.5%	98.9%	515,503	28.5%	150.6%	・増収に連動した増益。
当期純利益	196,894	13.0%	13082.7%	301,930	16.7%	153.3%	・増収に連動した増益。

平成 23年 6 月期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	平成22年6月期		平成23年6月期		増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	2,755,387	39.1%	3,597,488	49.0%	定期預金の増加（有価証券から定期預金への振り替えと当期純利益分）。
売上債権	391,717	5.5%	415,091	5.7%	売上回復に伴い増加した。
棚卸資産	197,127	2.8%	184,721	2.5%	
その他流動資産	533,738	7.6%	20,570	0.3%	有価証券が減少した。
固定資産	3,170,272	45.0%	3,118,038	42.5%	減価償却費の範囲内の設備投資額であったため固定資産総額は微減となった。
資 産 合 計	7,048,244	100.0%	7,335,911	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	13,313	0.2%	16,204	0.2%	売上増に伴う買掛金の増加。
その他流動負債	231,772	3.3%	255,904	3.5%	
固定負債	311,667	4.4%	339,192	4.6%	退職給付費用と役員退職慰労引当金の年数による増加。
負 債 合 計	556,753	7.9%	611,300	8.3%	
純資産合計	6,491,490	92.1%	6,724,610	91.7%	当期純利益分の増加。
負債・純資産合計	7,048,244	100.0%	7,335,911	100.0%	

キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	平成22年6月期	平成23年6月期	対前年比増減額	増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	646,462	567,262	▲ 79,199	主な増加要因：税引前当期純利益 515,488千円、減価償却費 216,881千円、未払金 39,775千円 主な減少要因：法人税等の支払額 243,427千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 208,084	▲ 637,637	▲ 429,552	主な増加要因：有価証券の償還による収入 500,000千円 主な減少要因：定期預金の純増額 1,002,573千円 有形固定資産の取得による支出 132,887千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 90,372	▲ 90,098	274	全額配当金の支払い額
現金及び現金同等物の増減額	348,004	▲ 160,473	▲ 508,477	
現金及び現金同等物の期末残高	1,320,994	1,160,521	▲ 160,473	

今後の事業展開 ～ コレットチャック部門

事業環境

- ◇金属部品加工の微細化・精密化の進展
- ◇大量生産品や高精度を要求されない部品は海外生産へ
- ◇工具の売上は機械稼働率とほぼ連動

競争状況

- ◇国内は数社、中国等の工具メーカーの台頭（納期・品質で不安定）

当社の事業展開

- ◇専用機・NC旋盤向け特殊コレットチャックの対応力向上
- ◇顧客の要望の充足、納期・品質の徹底

今後の事業展開 ～ 切削工具部門

事業環境

- ◇加工複雑化に伴い特殊刃物ニーズ拡大
- ◇高価な超硬工具普及により再研磨ニーズ増大
- ◇加工工程短縮・効率化を図るため、高精度の特殊切削工具へのニーズが高まる

競合状況

- ◇市場規模推定250億円
- ◇メーカー系、工具商社、各地域ごとに中小規模専門多数

当社の事業展開

- ◇営業地域拡張し、知名度・認知度向上を目指す
- ◇特殊ものへ対応範囲を拡大し、新たな顧客層の拡大に努める

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

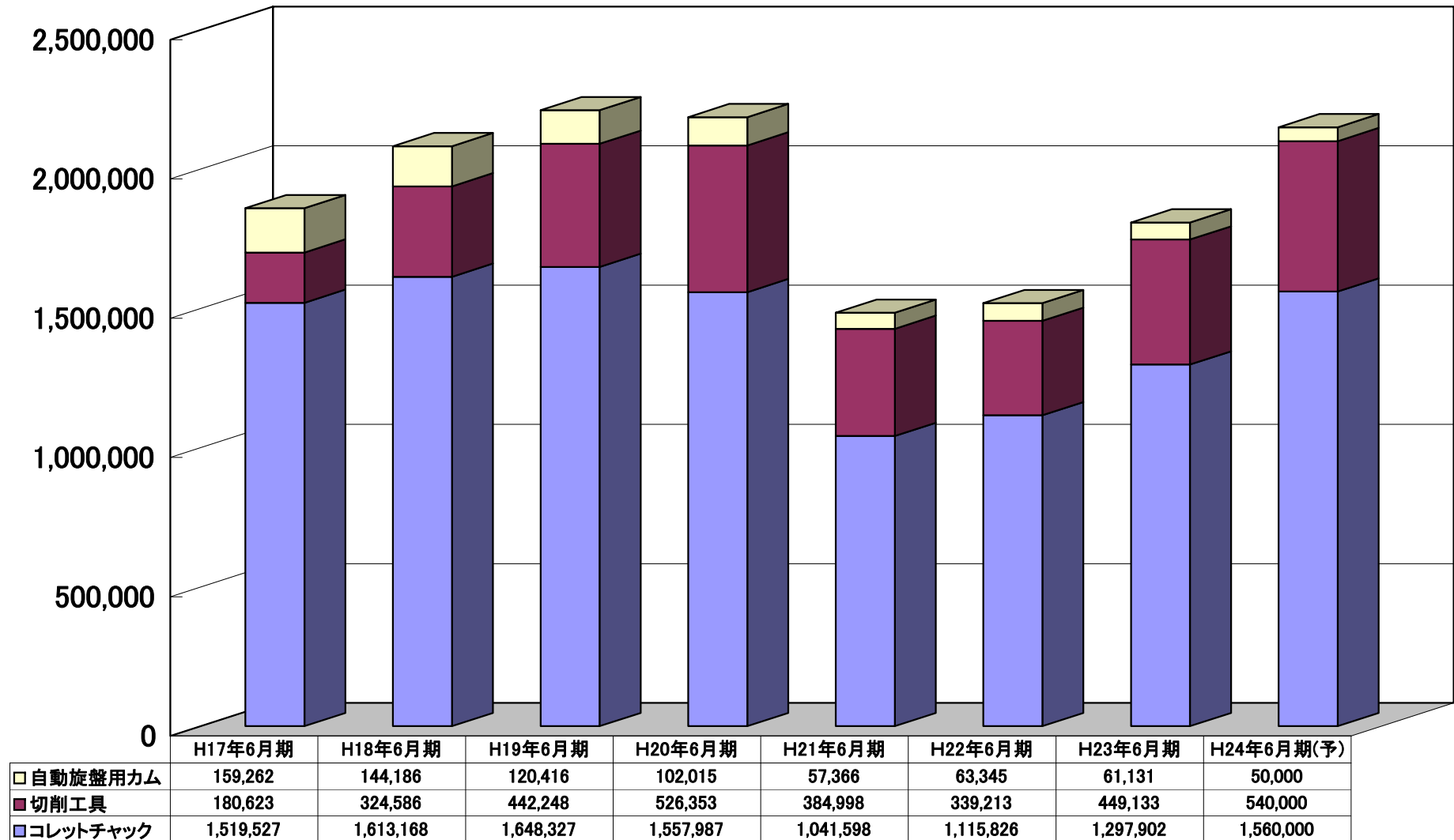
- ◇1億円の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

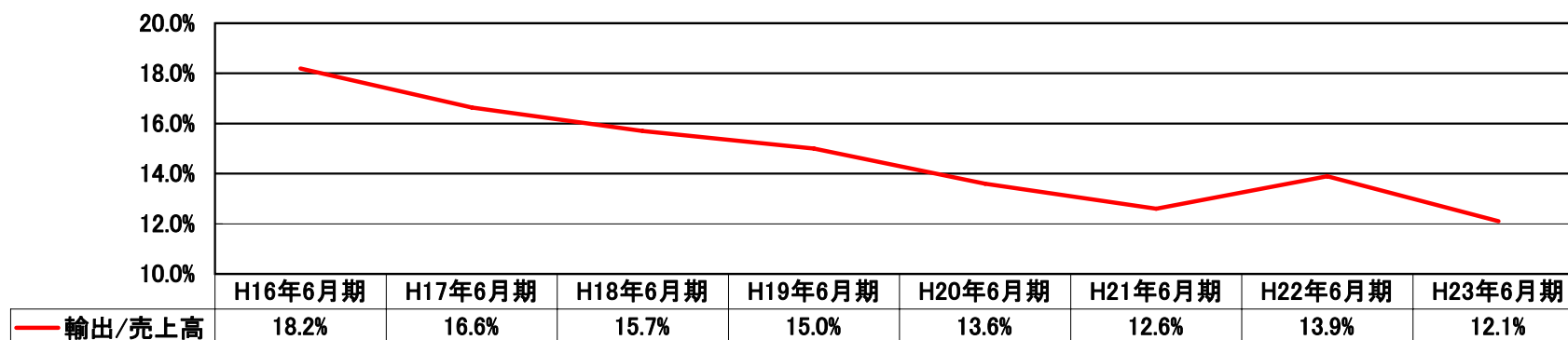
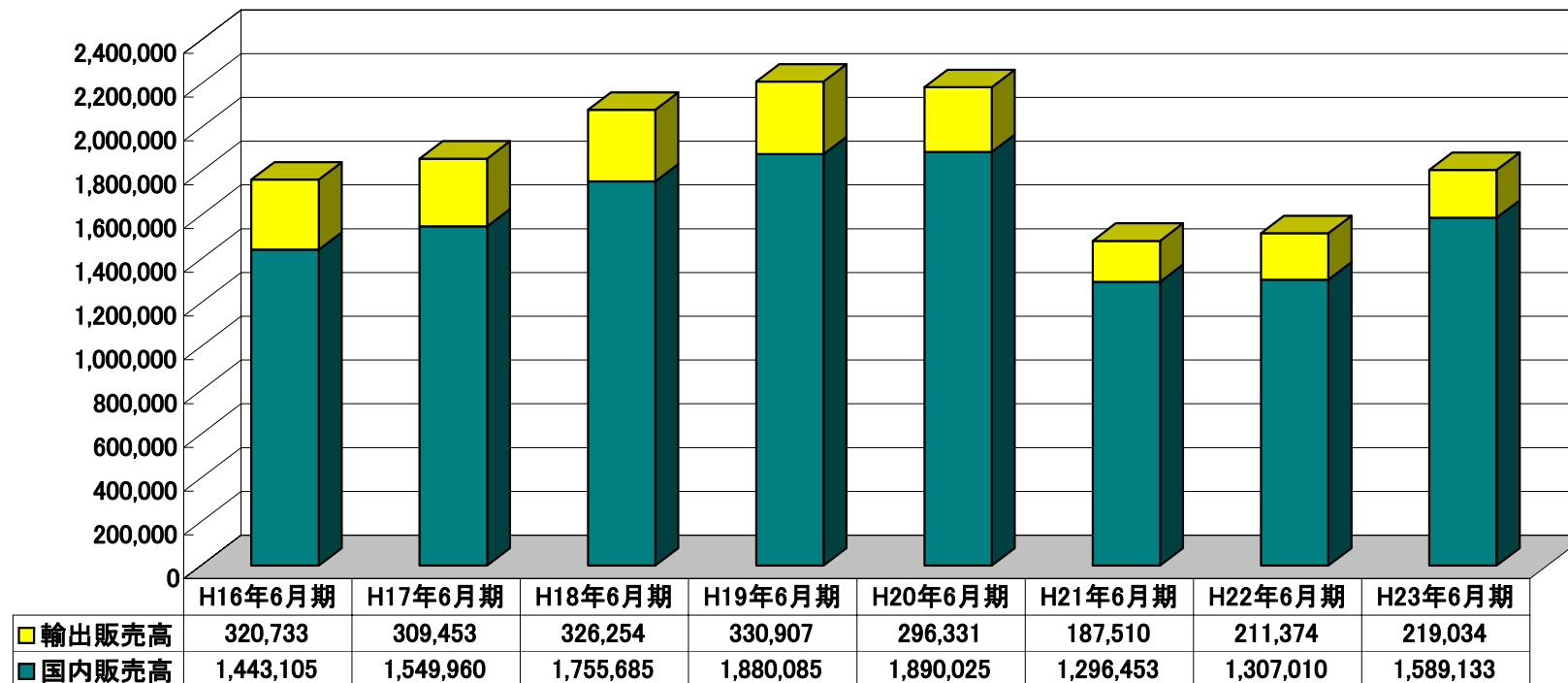
部門別売上状況

(単位：千円)



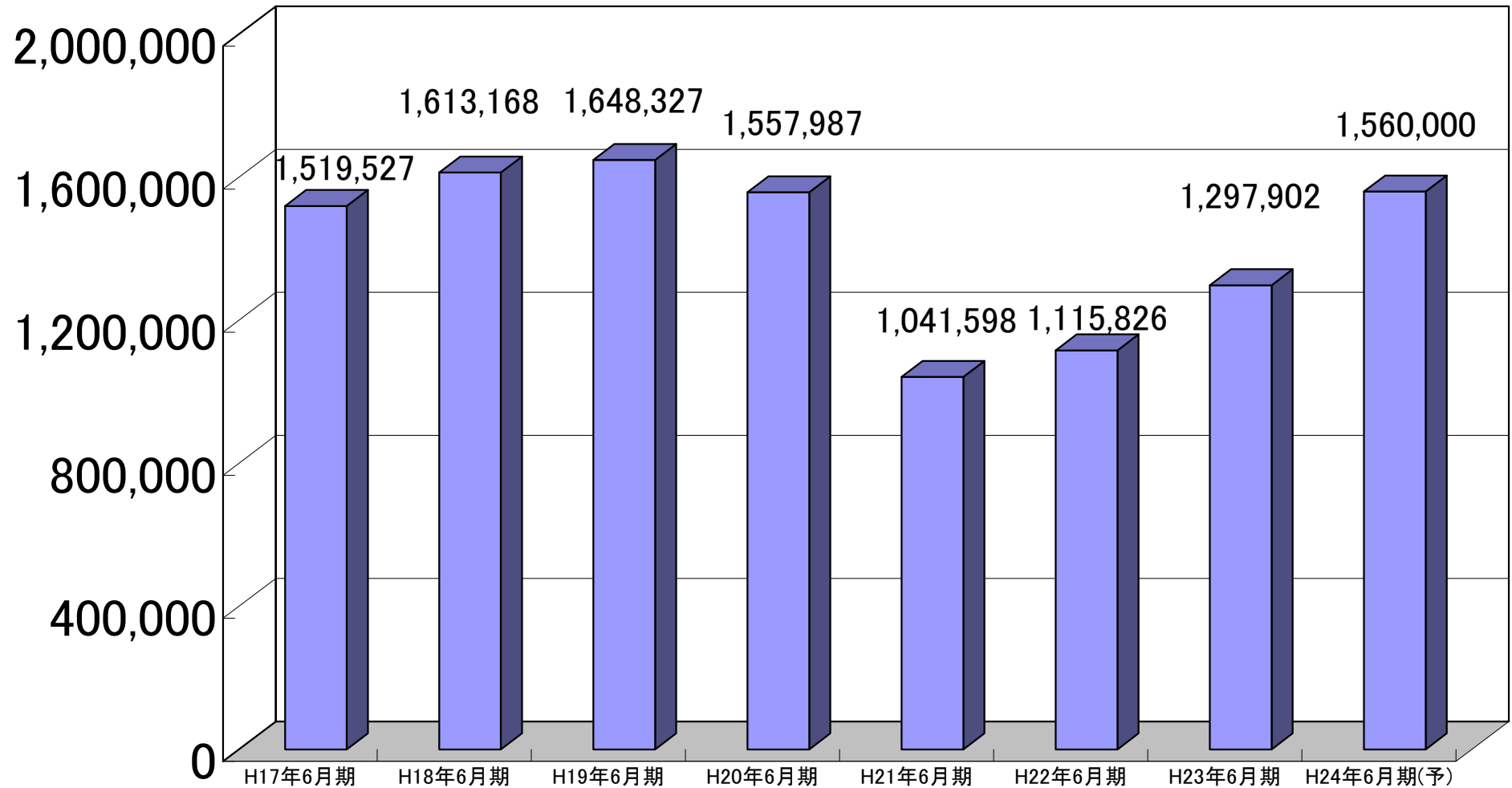
輸出売上状況

(単位：千円)



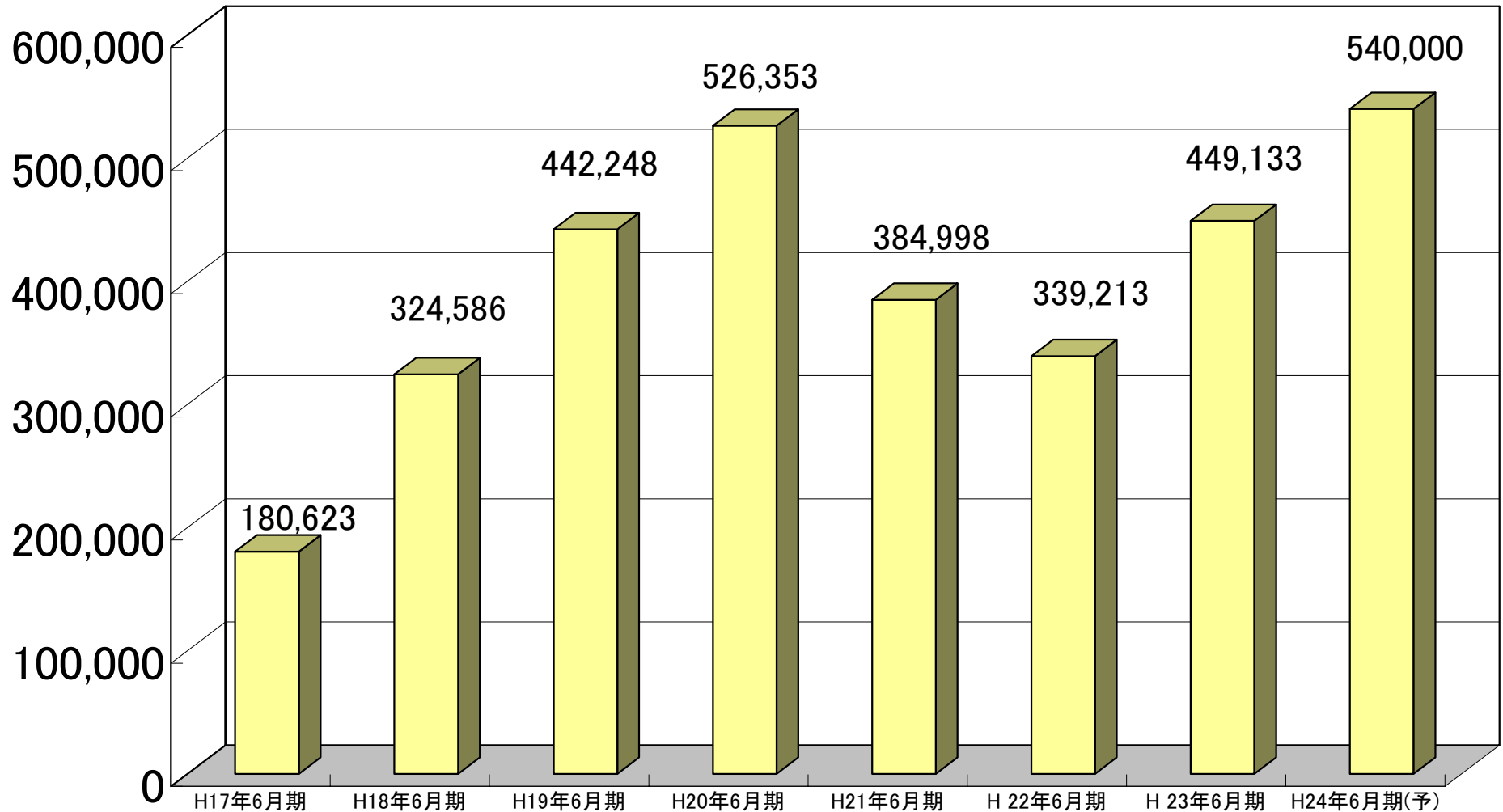
部門別状況 ～ コレットチャック部門

売上高(単位:千円)



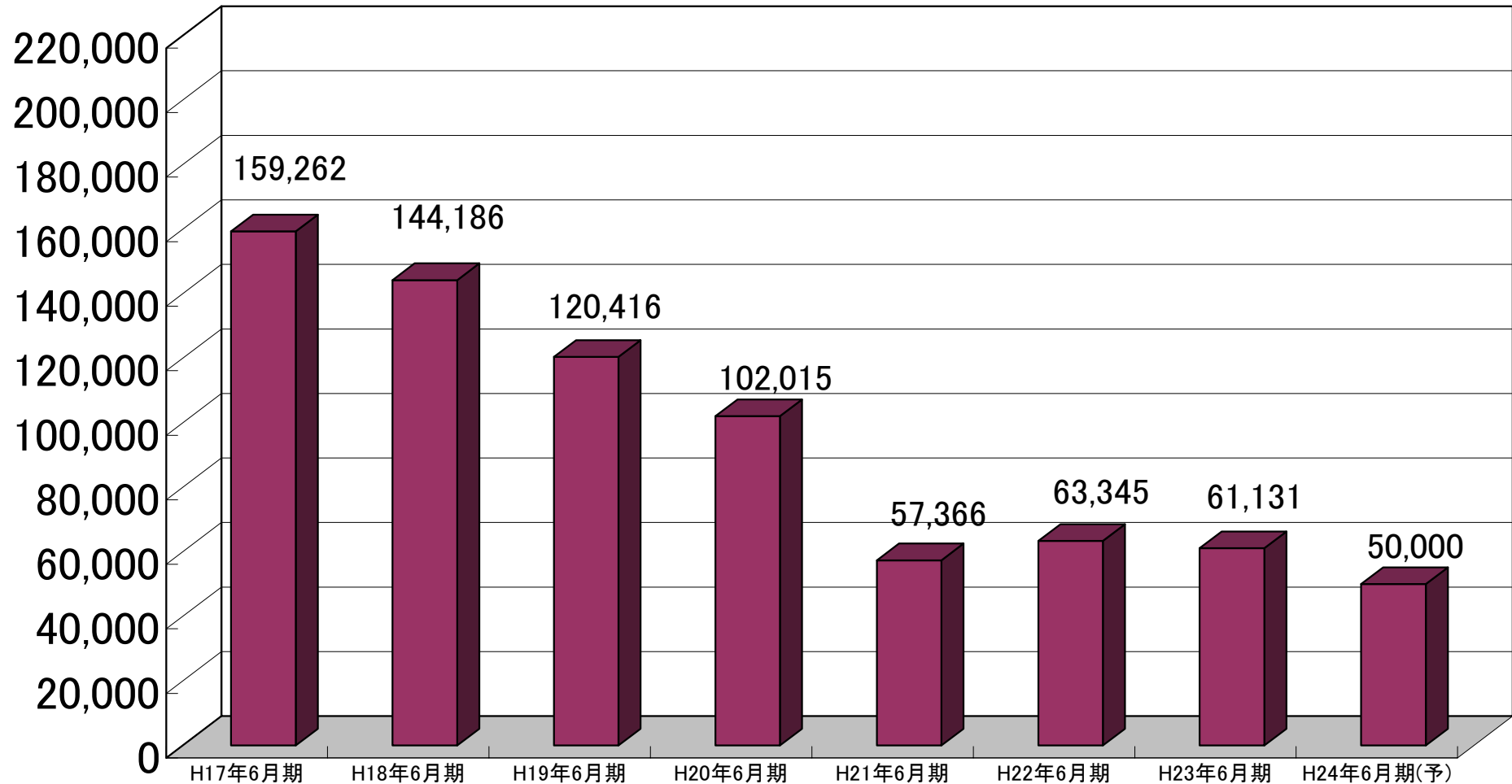
部門別状況 ～ 切削工具部門

売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

売上高(単位:千円)



設備投資と減価償却

	H19年6月期	H20年6月期	H21年6月期	H22年6月期	H23年6月期
設備投資額 (単位:千円)	319,382	196,955	513,931	225,010	133,667

	H19年6月期	H20年6月期	H21年6月期	H22年6月期	H23年6月期
減価償却費 (単位:千円)	158,136	194,751	210,917	233,795	216,881

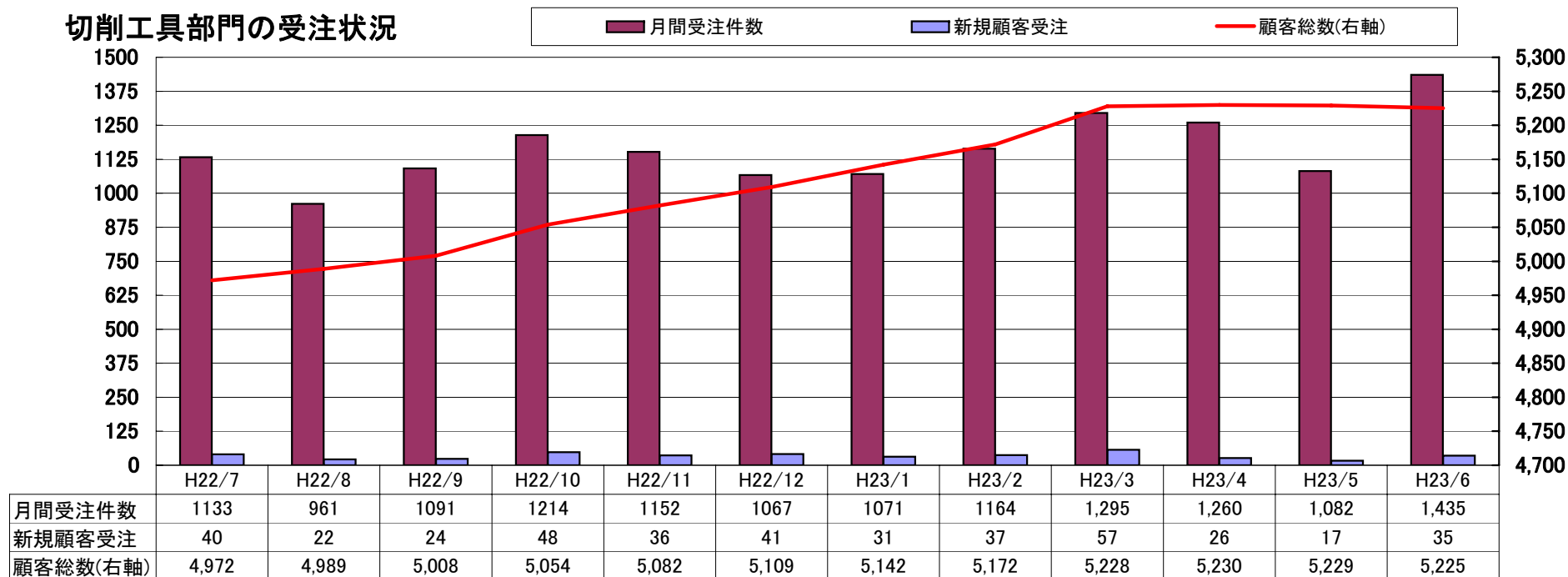
切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

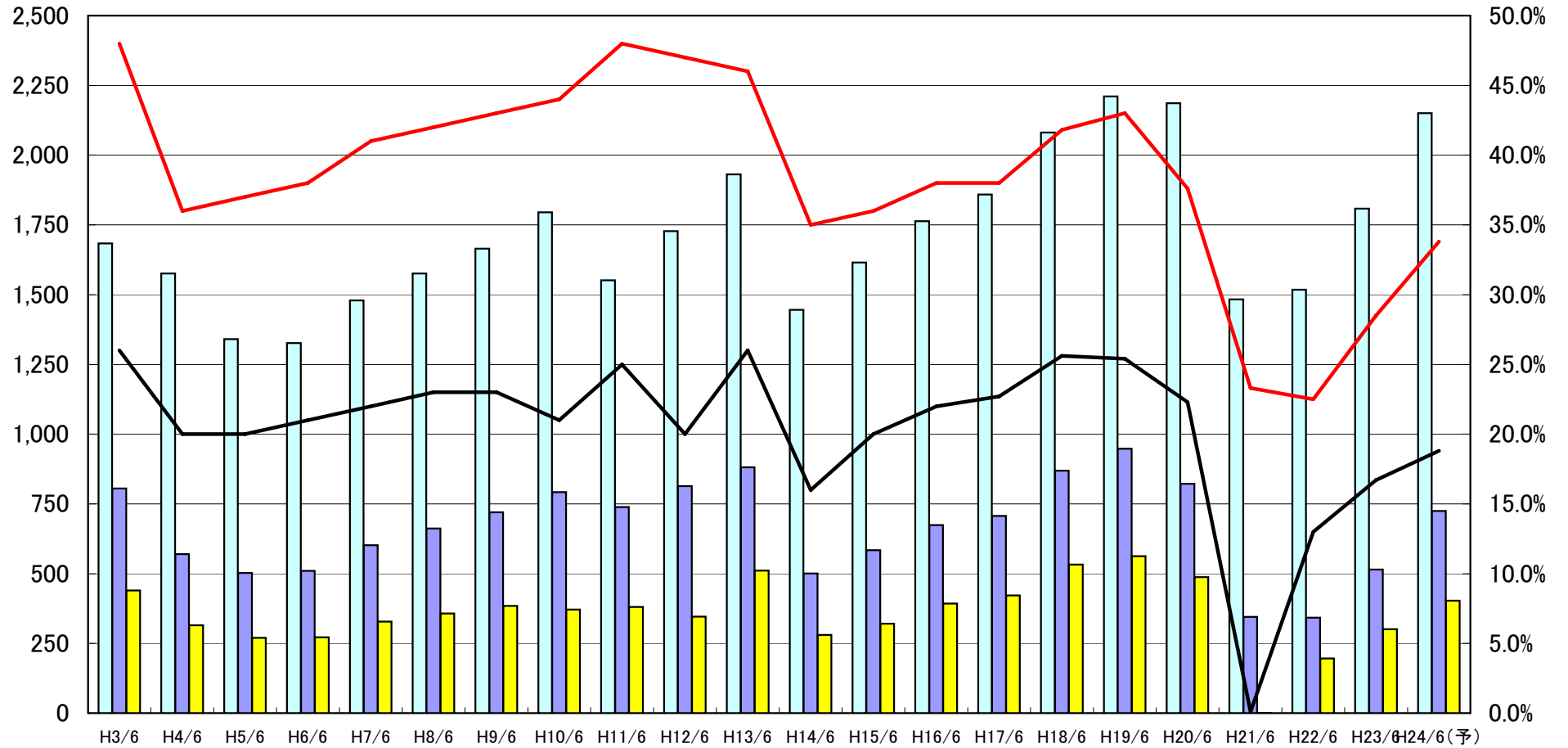
切削工具部門の受注状況



業績の推移

■ 売上高
 ■ 経常利益
 ■ 当期純利益
 — 売上高経常利益率
 — 売上高当期純利益率

単位: 百万円



実質機械受注と月次売上高

